

イマヌエル教報

2021.

1

1947年7月1日第三種郵便物認可 2021年1月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.894

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

だれが隣人になるのか

教団代表 内山 勝



主の恵みと憐れみのゆえに、新しい年を迎えることが許されました。主に心から感謝します。皆さまの上に、主の恵みが豊かに注がれますよう祈ります。

「しかし彼は、自分が正しいことを示そうとしてイエスに言った。『では、私の隣人とはだれですか。』」

「この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」

さて、昨年はコロナ禍で、全く想像もしなかった困難な一年を過ごしました。しかし、主は、そこからも多くの恵みと語りかけを与えてくださいました。それは、これまでの歩みのままであってはならないという戒めと共に、新しい心で新しい道を歩んで行くようにとの促しでもあったと思います。

昨年秋に行われたJEA主催の「宣教フォーラム」に参加された方々は覚えておられると思いますが、私にとって最も心に残ったのは、「これまで、私たちの教会は、強者のための教会であったのではないか」という反省のことばでした。新型コロナウイルス感染拡大のために、一度に多くの方が教会に来られなくなりまし。そういう状況下で、どうしても一緒に礼拝を捧げられるだろうかと祈り求めました。その結果、多くの教会では、インターネット配信サービスを用いて、自宅にいても礼拝に参加できる道が開かれました。それ

は幸いなことでした。しかし、そのことを通して私たちは、今まで私たちは、会堂に集まれる人々しか礼拝の対象者と考えて来なかったのではないかとこの厳しい問いを、逆を受けることになったのです。さらに、私たちは、表向きには「すべての人に開かれた教会を」と謳いつつ、実際には、自力で教会に来られる方々、奉仕できる方々、何らかの形で教会に貢献できる方々を、礼拝で恵みを受けるべき第一の対象者と考えていたのではないかとこの猛省を迫られたのです。主はその壁を越えさせてくださいました。しかも、強い批判の応酬や長時間の議論によってではなく、コロナ禍を通して、否応なしにそうせざるを得ない形で速やかに実現させてくださいました。主の深い知恵と憐れみの大きさには驚嘆させられます。

今、改めて考えさせられています。教会とはいったい何なのでしょう。教会は誰のためにあるのでしょうか。教会では何を一番大切にしたら良いのでしょうか。そうした根本的な問いが改めて投げかけられているのが、新しい年の歩みではないでしょうか。自分の正しさを示そうとして「では、私の隣人とはだれですか」と言い張るのでしょうか。それとも、どうしたらあの方々の隣人になれるだろうかと自問しつつ、主が願っておられる道を探り求めるのでしょうか。

もしも今、私たちが変わることができれば、次の十年には大きな可能性があると思えます。変化を恐れず、主の呼びかけに応えようではありませんか。

目次

- だれが隣人になるのか……内山 勝……1
- 局長 3年間の感謝と今後の期待……2
- 代表選挙公報、ネット環境支援、YSB報告……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、燭台……4
- 中部ブロックの近況、改正案取り下げの経緯……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

感謝と期待

非常時にも多くの助けが



総務局長
寺村 秀嗣

「私の兄弟 友のために さあ私は言おう。『あなたのうちに平和があるように。』」

(詩篇一二二篇8節)

全国教会の皆様のお祈りとご協力を心より感謝申し上げます。初めて教団運営委員の一員として群れの働きを担うことになりましたが、力及ばないことをしばしば痛感しつつ、あつという間に流れていく時の早さを感じた3年間でした。昨年度はコロナウイルスの影響で本部運営態勢が通常の形を取れない状況となり新年も続いていますが、本部運営のために主の平安を祈っていただくさる多くの方々に支えられていることに励ましを得てまいりました。また非常時の中、本部フロアの職員の方々の献身的な助けにより支えていただいたことにも心から感謝いたします。教団全体の運営は陰にある愛に満ちた多くの配慮によって進められていることを学び、これまで同じ責任を担われた器方も経験された思いの跡を辿りながら、ただ感謝の思いを抱いています。

感謝と期待

それでも憐れみは豊かに



国内教会局長
岩上 祝仁

「主のあわれみが尽きないからだ。」(哀歌三・22)

来月で教団総会を迎え、3年間の憐れみ」によって支えられたの一言です。

国内教会局として取り組んだのは教会の働きの下支えとコミュニケーションの充実です。全国主事会を1泊2日でホテルハウスで開催し、世界宣教局や信徒局とも連携して、主事会で教団的な取り組みを支える土台作りをしました。またブロックアドバイザーと局長による教会局実務会を始めました。昨年新型コロナウイルスの感染拡大により、教会は今まで経験したことのない状況に追い込まれました。その中で全国の先生方も教会も信仰によって知恵を尽くして戦っておられます。この状況は今後もしばらく続くこととなります。その中で、私たち自身が主の救いを喜び、この恵みをまだ知らない方々にお伝えして、教会の使命を果たして行く取り組みを全国の教会とともに進めて行きたいと思えます。

感謝と期待

マケドニアの声に答えて



世界宣教局長
梅田 登志枝

「マケドニアに渡って来て私たちを助けてください。」

(使徒の働き一六・9)

今期総会期も全国の教会のご支援とお祈りのゆえに世界宣教の働きが進み行きましたことを心から感謝いたします。宣教訪問団は教育局との共催で青年たちをザンビアにお送りしました。コイン献金の「愛の泉プロジェクト」により、毎年、宣教地の具体的な必要に応えることができました。局長が新型コロナウイルス感染症蔓延の前にケニア、ザンビア、カンボジア、台湾の訪問が許されたことは主の憐れみでした。現地の共通の叫びは「人を送ってください」とでした。医師、看護師、聖書学校教師、牧師が求められています。感染症の影響も含めた国内教会のあらゆる状況を考慮しつつもこのような「マケドニアの声」に真摯に応え続ける局であるようにと願います。そのためにも宣教の担い手となる人々が出で行き、それを支える人々が途切れることなく起こされ続けるように切に祈り求めます。

感謝と期待

新総会期も次世代育成を



教育局長
小川 宣嗣

「教えにかなった信頼すべきみことばを、しっかりと守って：健全な教えをもって励ましたり：」

(1テモテ一・9)

総会期最終年は、コロナ問題により教育局各部・各課の活動全般も大きな影響を受けました。しかし、背後の尊いお祈りと各担当の皆様方の犠牲的なご愛労により、その時点での最大限の対応がなされ、幸いな活動が継続されました。教育部の牧師研修、信徒伝道者研修の取り組みにおいて、オンラインを駆使したプログラムが取り入れられ、非常に幸いな反応を頂きました。青少年部YSやYSB、とにキャン、CS課の働きでも、オンライン集会やフォーラムが積極的に開催され、多くの制約の中でも良き手応えを得ることができたことは本当に感謝でした。この経験と知識の蓄積は今後の働きに良い形で生かされると信じますが、新しい年、新総会期に向かいますが、教育局の働きが健全な方向性をもって進められますよう、引き続きお祈り頂ければ幸いです。

感謝と期待

エベン・エゼルの3年間



信徒局長
斎藤 純雄

「これまで主が私たちを助けてくださった。」(1サムエル七・12)

第21次総会期に信徒局は、牧師と信徒の幸いな協力を目指して発足しました。この総会期にまずレベルに乗ることを目標にし、まだその途上にあります。確実に動き始めています。

壮年部・女性部は青年層も加えて各部の枠を超えた活動を願っていました。その一つが「信徒フォーラム」の開催でしたが、YouTubeやZoomも併用し、全国の信徒を対象として、次年度秋の開催を目指しています。教団活動支援部は、2019年5月アラムナイセミナーの会場運営支援を実施。2020年3月の年会運営支援準備をしましたが、開催中止となりました。今後も教会や教団での活動のお役に立つよう検討してまいります。カナ・フェロシップは年2回のセミナーとフェロシップ・タイムを開催、結婚を考える良き出会いの場としてさらに用いられることを願っています。

選挙公報

代表予備選挙

次期教団代表候補3名を選出する予備選挙は、11月16日で締め切り、12月1日に開票作業を行いました。選挙権者198名に対して、投票数184通、すべて有効投票でした。

3名の代表候補者

集計の結果、得票数の上位3名を、次期総会時に実施される教団新代表選挙の候補者として確定しました(以下、敬称略・五十音順)。

岩上 祝仁 (神戸教会)

内山 勝 (名古屋教会)

藤本 満 (高津教会)

なお「代表選出規定」に則り、各候補者の得票数及び順位は公表いたしません。ご了承ください。

2月総会時には新代表選出へ

2月11日(木)開催予定の第22次教団総会において、教職・信徒代議員(計62名)の投票により、これら3名の候補者の中から新教団代表(代表役員)が選ばれます。3名とも得票数が過半数に満たない場合、上位2名による決選投票を行います。

なおコロナ禍のため、これまでとは違った対応をお願いする場合がございます。その際には、何卒ご協力、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

第22次総会

教団代表候補者

プロフィール

岩上 祝仁



1965年2月生まれ。神戸教会出身。神学院卒業後、神戸教会副牧師を経て、久留米教会、神戸教会の主任牧師として奉仕。2012年より南日本BA。現在は国内教会局長。

内山 勝



1956年10月生まれ。四日市教会出身。神学院卒業後、豊中開拓。久留米・豊田・名古屋教会を歴任。2009年より中部BA。2012年より国内教会局長。2018年より代表。

藤本 満



1957年1月18日生まれ。高津教会出身。米国での神学校と大学院の学びの後、高津教会の牧師となり現在に至る。世界宣教局長、国内教会局長を経て、代表を2期務めた。

国内教会局から……

ネット環境支援室「基本セット」の提供

国内教会局員 川嶋直行

昨年コロナ禍のため大半の伝道サポートはキャンセルになりました。リアルに集まっていたのが予想されます。一方でインターネットを活用したりリモート礼拝や会議が盛んに行われています。そうしたことを踏まえて、国内教会局ネット環境支援室が設けられました。当面の課題は、ネット環境のない教会をサポートすることです。光回線やパソコンが無くても、直ぐにZoomやYouTube、メール等が使えるよう設定された「基本セット」を提供いたします。慣れない方でも、教区担当者が丁寧にサポートします。ぜひ取り組んでみてください。コロナ後も、ネット活用の流れは止まることはないでしょう。第2段階として、ネットを使った情報発信、ホームページ作成、ネットリテラシー等について専門家の講演や、情報交換の場を設けて行けたらと考えています。パウロがあらゆることを福音のためにした(1コリント九・23)ように、私たちも時代の要請に応じて行きたいと思えます。

第5回 YSBリトリート

「感謝」～みことばの光を日々の歩みに～

初めてのZoomでの開催

岐阜教会 鈴木あゆみ

準備の話合いからZoomで11月22日(日)、Zoomを用いて、第5回YSBリトリートが開催されました。このリトリートを開催するにあたり、今年2月に1回目の委員会がもたれました。2回目からは状況が一変し、本部に集合することができなくなり、Zoomを使って会議をすることになりました。委員のほとんどがZoomは初めての経験でしたが、慣れるとかなり便利で、委員の仲もより深まったと思います。■当日のプログラムと恵み プログラムは委員それぞれの賜物を生かし、Zoomならではの工夫を凝らすことができました。讃美は、皆が音声をオンにして歌うのは雑音が入り難いので、委員がそれぞれの場所で賛美し録画した動画を合成し一つの賛美動画に仕上げました。アイスブレイクでは申込時に取ったアンケートからクイズが出題されました。クイズが出されたら、ブレイクアウトルームに分かれてグループ皆で

考え、再びメインルームに戻り、リーダーが答えをチャットに書き込むという方法を取りました。初めてZoomを使う方も多かったですが、この時間でかなり緊張もほぐれたと思います。「感謝」～みことばの光を日々の歩みに～をテーマに河村從彦先生より、1テサロニケ五・16、18からメッセージを頂きました。この聖書箇所に出てくる3つのお勧めを、シユバイツァー型(目指すべき目標)とルター型(はなからできない事)の2つの視点から読むことで、自分の現状を見つめ直し、その上で実践できていなくても、それを責めるのではなく、受け入れることで、神様の恵みが必要になることを学びました。また、感謝は喜びの中から生まれるだけではなく、悲しみを神様と共有することで生まれる感謝もあることを学びました。メッセージの中で小グループに分かれる時間が何回もあり、同世代の方との分かち合いで学ぶことができ感謝でした。■全体をとおして 参加者は名簿上40名でしたが、YSBの世代的にご夫婦やご家族で参加された方も多く、画面を覗き込む子どもさんの顔が映ったりして、とてもほのぼのとしました。今回、現地開催はできませんでしたが、Zoomというツールを神様は備えていて下さり、当日は機器のトラブルなども無く最後まで守られ、祝福された会となり感謝でした。

国内教会局から

恵み豊かな教会に
原点を見つめ直して

新型コロナウイルス感染に翻弄された2020年に締め括り新年を迎えました。昨年は個人の信仰生活も教会の働きもあまりにも大きな影響を受けましたが、年がかわってもその影響はまだ治まりそうにありません。



このような中で教会は今年末には教会総会を迎えようとしています。1年の計画もどれだけ実行できるか不透明で、知恵を絞らなければなりません。このような時こそ、私たちの信仰の原点を見つめ直す良い機会ではないでしょうか。イムマヌエル、主がともにおられることは私たちの出発点であり原点です。

ですから、主がともに働きます。私たちが進むべき道を切り開いてくださること信じましょう。教会はキリストのからだです。状況がどのようなであつても、見た目は後退のように見えても、その働きは前進し続けるのです。教会も私たちも、ともにいてくださる主と一歩ずつ前進しましょう。(阪下謙)

■ロンドン教会での洗礼式を警察が中止に
ロンドン警察は11月15日、イズリントン地区にあるバプテスト天使教会の洗礼式を、結婚式や洗礼式の禁止を含む同国のコロナウイルス規制を理由に中止した。今回の措置には、イングラントとウェールズのカトリック司教など教派を超えた批判が起きている。

天使教会のリーガン・キング牧師は、国の公衆衛生上の規制に違反して、約30人の出席者を集めて洗礼式を行った。警察は洗礼式を中止し、教会の外に警備員を配置して立ち入りを禁止した。洗礼式中止を伝えられ、同教会のリーガン・キング牧師は中庭での集会開催に同意した。イブニング・スタンダード紙によると、15人が外に出たが、15人が会堂に残ったという。当初予定されていたのは洗礼と対面型の礼拝だった。

教会は葬儀と「個人の祈り」のためには開けるが、「共同礼拝」



海外トピックス

は認められてはいない。英国政府は、パンデミック(ウイルス症例の急増)の間、パブ、レストランなど「非必須」事業を4週間の閉鎖する規制を再開。前回は春に行われ、3月23日から6月15日まで

■ベルリンに3大宗教結ぶ「一つ」
教会が閉鎖された。カトリック教会は、教会の閉鎖は『深い苦悩』を引き起こすとの声明を発表、2回目の規制を鋭く批判した。

「家」構想
キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の3大宗教を結ぶ「一つの家」構想がベルリンで進んでいる。この宗教間プロジェクトは、すでに個人や企業、国レベルまで様々な寄付者からの支援を受けているだけでなく、独政府内務省と環境省が1千万ユーロ(約12・5億円)支援し、ベルリン市、欧州連合大学エラスムス・プログラムなどの公的機関や財団などもスポンサーになる見込み。構想のシンボルと言える建築「一つの家」が2023年完成すると、教会、シナゴグ、モスクが皆、中央のロビーで結ばれる。最初の活動は、平和のための宗教間の祈りのイベントと、宗教間の一致を目指す指導者たちのオンラインワークショップを検討。何世紀にもわたって慣習化された宗教ではなく、それらを超えたより大きな多様性の中で形成される役割を果たすことを目指している。(平瀬聡樹)

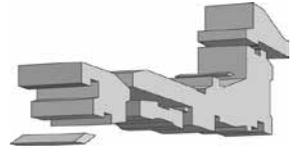
「教会と聖霊との歩み」を思い巡らしながら、これはオーケストラと指揮者の関係に似ているのではないかと気がつきました。実際に楽器を演奏するのは一人ひとりの楽団員です。第一バイオリンからコントラバス、ティンパニーに至るまで、その楽器特有の響きと、演奏者の個性があります。そのそれぞれ個性を引き出し、調和させながら、「その楽団の音」を作り上げていくのが指揮者の仕事です。■私たちの教会にも、それを構成しているメンバー達がいます。その個性も様々です。また教会の置かれている地域的特性もあります。よき指揮者なる聖霊は、七つの教会を知りたもうお方(黙二・三章)と共に、今年も私たちの教会の指揮者であってくださり、私たちの教会だからこそ醸し出せる「教会の音」を引き出し、導いてくださるでしょう。■楽団員として大切なことは、その指揮者の指示を的確に把握し、それに従って行くことです。それは私にとつて、「聖霊に導かれて歩む」ことの実践であり、訓練でもあります。実践で驚いたことは、指揮者のタクトと楽団員のズレを感じたこと



指揮者は聖霊です

でした。オーケストラの演奏が指揮者のタクトよりも遅れていることなどありません。しかし私には確かに遅れているように見えるのです。そのことを意識して以来、どこか割り切れないモヤモヤが付きまとっていました。■しかし最近、あるチェリストが某指揮者について、「表現、感情などを、あの先生は、他の指揮者よりも早めに早めに振ってくださるのでとても演奏しやすいんです。」と言うのを聞きました。これは大げさに言うと、私には天啓のように感じました。しかもその某指揮者とは、私の感覚では一番ズレの大きな人でした。■聖霊は私たちの今よりも少し先を導いてくださいます。聖霊と共に歩もうとする者にとつては、それはとても有り難いし歩きやすいことです。また聖霊は、ホンの一瞬、わずかな身振りでサインを私たちに与えられます。その私への僅かなサインを決して見逃さずに瞬時にそれを理解し、それに従うことができることは、聖霊とともに歩む訓練ともなります。聖霊に導かれる歩みの醍醐味をさらに深く味わいたいものです。(詩篇四〇・8) (國光勝美)

国内教会局 スクエア



中部ブロックの

近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

葛田 崇志たかし

主にあつて新年のご挨拶を申し上げます。旧年中の篤いお祈り、またご指導賜り感謝申し上げます。今年も何卒宜しくお願い致します。

◆静岡教区

昨年はコロナ禍で春の青年大会(5月3日)、夏のCS教師講習会(7月23日)等の開催は見合わせました。各教会の年間予定も少なからずの変更を余儀なくされました。その中でも主の知恵を頂き、許される方法で礼拝や集会、伝道や教会建設を継続することが許され感謝を致します。先行きの不透明な中であつて求道をする方々をお迎えし、受洗に至る方々も加えられましたこと、御名を崇める次第です。

秋に第19回静岡聖会をDVD聖会として開催することが許されました。このような形をとったからこそ参加が可能になる方々も多く興され(およそ七割増)思わぬ恵みを味わいました。次以降の聖会の持ち方に新たな光も与えられております。

昨年は信徒総会代議員の横山望兄(静岡)を天にお送りしました。

尊いご愛労に主の豊かなご報酬を祈ります。本年総会に向けて新たに内田信也兄(清水)が選出され、また長期入院中の小久江昭兄(浜松)に代わり、小原一夫兄(浜松)が選出されました。

◆中京教区

中京教区でも安全を考慮して主要な聖会などはオンラインでの配信を展開しました。新年はさらにオンラインを想定しての取り組みを積極的に計画しています。特にNPOなどの機能を有効活用する可能性を探りつつ、新しい形の教会の働きを模索しています。

当教区でこれまで取り組んで来ました交歓講壇も現在の状況を鑑みて当面は控えています。それでも教区内の相互の交わりが保たれ、祝されることを目指しつつ取り組みを重ねております。

コロナ禍での教団総会、年会を控える中、内山勝代表の御霊肉が支えられますようにお祈りください。

◆北越教区

南北に広がります7つの教会は、昨年のウイルス感染拡大以前より、

一つ所に集まる困難と取り組んで参りました。聖会会場の分散はその一つでしたが、この度はそれも間に合わず、主だった集いは中止となりました。教区規模のオンラインプログラムは今の所始まっておりませんが、各個教会では創意工夫を重ねて、礼拝をはじめ諸集會を守っています。

金沢泉教会と小松教会が伝道サポートシステムを活用する予定でしたが、次年度に持ち越すことになりました。祝福をお祈りください。またこのような状況の中で、北陸地域にウエスレアン宣教師のロビン・ホワイト宣教師ご夫妻をお迎えしました。これからの協力関係に神さまの祝福と結実をお祈りください。

◆お祈りください

ご高齢の先生方、聖徒方のご霊肉が守られますようにお祈りください。健康も然ることながら、ストレスや不安から心が守られますように。社会的距離に配慮する中で、孤立する方々や教会が生じるこのないよう。

コロナ禍で迎えております、クリスマス、年末・年始、そして教団総会に向けて相応しい取り組みが果たせますように。これまでとは違つかたちで進まなければなりません、教会が、そして教区が主にあつて一つとなつて前進することが許されますように。

このような困難の中からむしろ豊かな結実と福音による喜びが溢れますように(ローマ八・28)。

第22次総会に向けて……

BA制度、理事会制度 条例改正案としての 取り下げの経緯について

教団代表 内山 勝

くことが大切との判断から、取り下げを決定しました。

ただし、現行条例下にあつてもすぐに着手できることは、試みとして取り組むことなど、移行をスムーズに進めるための努力を怠らないことを確認しました。

II 神学院理事会制について

改正案の正式文書が配布されたのが10月はじめとなり、春の教会や年会では話し合っていたべく機会が得られませんでしたし、多くの教区では秋の教区会にも間に合はず、十分な話し合いができなかったとのことです。このまま総会で議決するのには無理があるとの指摘を多数いただきました。

ご質問・ご意見の数々から、文書での説明が不十分であったことも反省しております。理事会制について肯定的な諸氏からは複数の対案が寄せられ、今後の検討に資するものと感謝しています。

また、素案提出までの過程で、神学院教師会とのコミュニケーションや信頼関係に問題があつたことも深く反省しています。

これらの諸課題を踏まえた上で、総会までに皆さまにご納得いただけるように説明を尽くすのは困難と判断し、取り下げの事を決定しました。

頂戴した多くのご意見に耳を傾け、組織改革検討チームや教師会などの助けをいただいて練習直した上で、さらに良いものを提案できればと願っております。引き続きお祈りください。

昨年10月8日付で全国牧師と信徒総会代議員宛てに送付された条例改正素案に対して、約70通の応答がありました。一つひとつが長文であることから、皆さまの関心の高さも真剣さが伝わって来ました。感謝しつつ、それらを重く受け止めさせていただきました。それを受けて、去る11月の教団運営委員会で慎重に検討した結果、改正素案の中の大きな2案を、取り下げる決定をいたしました。I BAの立場と働きについて この件は、前総会期から審議され続けてきた6年越しの課題です。皆さまから大方の理解が得られているとの印象でしたが、改定後の教区主事の立場の変更などに、多くの不安が寄せられており、それに対する具体的な方策をまだ十分に示せていないという現状を考慮すると、さらに整備してから移行すべきとの意見が出ました。また、今コロナ禍にある諸教会には、この対応に専念していただ

巻頭言

あなたを支えるから



世界宣教局 田辺 寿雄

2004年1月、私たちはケニアでの第二期の働きを始めました。田舎にあるカボン牧師学校に家族で移り、私はその校長となりました。あつという間に1か月が



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

http://www.immanuel.or.jp/world/

過ぎ、最初の理事会を迎えました。よくわけのわからないまま、他の教師やスタッフの助けを受けつつ、何とか資料などを揃え、ほぼ徹夜で準備をして当日を迎えました。朝、我が家の玄関からノックの音が。ドアを開けるとそこには少しくたびれたスーツを着た、がたいのよい60歳前後のおじさんが立っていました。自己紹介してくださり、理事のお1人で地元の牧師であることがわかりました。そのおじさんはガシツと私の右手をつかみ握手してくれたのですが、なかなかその手を放してくれません。それどころか、私の右手をしつかりとつかんだまま、私を外に連れ出して歩き始めるではありませんか。おじさん2人で、手をつないで歩く羽目になったのです。

歩きながら何か話しておられましたが、全く頭に入ってきません。大の大人、しかも男2人で手をつないで歩いている、それも真面目な顔をして。その状況に私はおかしいやら恥ずかしいやら、笑いを堪えるので精いっぱいでした。ちなみにケニアでは、男性同士が握手後にそのまま手をつないで歩くことは、そんなに珍しいことではありませんでした。でもそのおじさんが、抜けた歯と歯の間から唾を飛ばして、繰り返して言うてくれたことがありました。何度も言うてくれたので、それだけは今でも覚えています。「私たちがあなたを支えるから、何も心配なくいいです。」その熱いことばに、私の胸もいつしか熱くなり、今度は涙がこぼれるのを堪えなければなりません。おじさんのごつごつした手の中で、緊張と恐れで不安になっていた自分に気づかされた瞬間でした。新しい一年も、主ご自身がその御手で、宣教師一人ひとりの手をしっかりと握りしめ、共に歩み、支えてくださいますように。「あなたの右の手は、私を支えてください。」(詩篇六三篇8節)

私たちの祈りと献金をもって私たちの手を伸ばし、握りしめるようにして宣教師方を支えます。主の御名を賛美します。新型コロナウイルス感染症によって様々なことがあった特別な2020年でした。1年が終わわり、新たな年2021年を迎えます。皆様に主の豊かな恵みがありますようお願いしています。2020年を振り返り、神さまの導き・支え・御恵が変わらずに豊かであったことを思います。2020年が始まった1月には4月にザンビアへの再赴任を考え準備を始めました。それからコロナ感染症が世界的に猛威を奮い始め4月の再赴任は延期、先が見えない、計画が立てることができないという状況になりました。「先」が見えないという不安定さに「今」何をすればいいのか、何をすべきなのかということを考えてみました。見えない先ばかり見て、現状を見ていなかったことを教えられ、未来は主の御手にあることを気付かされ、信仰を改めました(申命記二九章29節)。焦る



ZAMBIA

ザンビア

ねまわり 根廻恵子*2020年12月1日

気持ちを抑えながら神さまの再赴任の時を待ちました。何度か「今がその時か？」という時もあり航空チケットを準備したりしましたが、留まるように導かれました。そして12月現在において新年の1月を再赴任の時として目指しています。この再赴任が叶いますようようお祈りいただければ感謝です。現在日本では冬にかけコロナ感染症が拡大していますが、ザンビアでは落ち着いており、ジェンボも未だに0ケースで守られています。クリニックでの働きもコロナの影響を受けずに、ほぼ滞りなく行われているようです。ただザンビアの経済はこのコロナ禍の経済後退でかなりの打撃を受けているようなので、その危機を発端とした社会的混乱が起きないように切に祈らされています。この日本帰国の際に、結婚に導かれるという出来事がありました。相手は東京キリスト教大学の学生、ポブ・コンベ・ニンダ兄です。今回の帰国時に出会い、結婚へと導かれました。多くの方に祈り支えられアドバイスをいただきながら11月23日の結婚式へと至りました。コロナ禍ではありましたが無事にその日を迎えることができ、背後に多くの方の祈りお支えがあったことを心より感謝申し上げます。これから私は1月にザンビアに再赴任、ポブ兄は大学での学びが続きます。今後の夫婦での歩みのために神さまの導きを求め続けていきたいと思えます。■



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2020年12月3日



KENYA

ケニア・テヌウエク

葛田就子*2020年12月7日



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2020年12月9日

研修を兼ねた病院での勤務では、多くの学びをさせて頂いています。外来はなくコロナの患者さんは来ません。ただ他院へ診察に行つた患者さんが帰つて来て2日目に熱を出しコロナを心配しましたが陰性でした。その経験から実際にコロナの患者さんを診ておられる病院、また家族はどんなに変かと思われ、祈るばかりです。療養的な病院ではありませんが、こも人手不足で昼食の1時間以外は朝8時から17時まで1度も座る時間がなく1日が終了します。

久々の日本の病院での仕事で慣れるのに大変でしたが、少しずつ慣れてきました。慣れてきたら終わりの経験はとても貴重でした。ザンビアでは経済が大変だと聞いております。1月15日にニンダ宣教師(根廻宣教師)と一緒にザンビアに帰ります。帰国準備と全ての行程、ザンビアでの生活のためにお祈りをお願いいたします。■

11月の前半は、スタッフの新型コロナウイルス検査結果陽性も含まれた病欠、また長期休暇関連の欠員等で四苦八苦でした。しかし、どうしようもない状況で祈りに応えてくださる方により、休みのはずの日に入ってくれたスタッフ等により、通過。手術室の主任も長期休暇から戻り、大きな違いを感じました。

一度下がりがかけてから上昇してしまつた新型コロナウイルスの感染率はなかなか下がらずにいます。霊安室のそばに建てられた小チャペルを改築して作られた待機病棟は、正門そばの母子健康外来を改築して作られたより大きな待機病棟ができた時点で一度閉鎖していましたが、患者さんの人数拡大に伴い、再開設となりました。どちらも固定スタッフではなく、色々な病棟のスタッフが休みを使って必要を埋めている状態です。各部署も休みのスタッフを使って人手不足を埋めている状態です。病欠等の穴

埋めが必要になると、もう打つ手がほとんどない状態です。周辺の病院のストライキも継続中。最低限必要な人数がいても、通常を越える数の患者さんがおられるのでスタッフも疲弊しています。

感染経路は病院・地域色々ですが、スタッフにも感染者が増加中です。今のところ、スタッフで重症の報告は無く感謝です。しかし検査の試薬が足りなくて検査結果が出るまで何日もかかったり、自宅待機ということ欠員が出たり、様々な影響があります。

航空便が届き、郵送の再開を確認。数日後、改装中の中央材料室で未開封の日本からの小包を見つけ、小包も届いたのかと日付を見ると、私が日本に帰国報告中(2018年から2019年)に届いていたものの様。3つの教会から6箱近く、包帯が中心。ちょうどよい時に与えられて感謝。

コンピューターを介して、根廻宣教師の結婚式に出席(ライブではなく録画にて)。実際の出席では拝見できない角度からお2人を拝見出来たり、聞き逃しを再生出来たり、と感謝。

月末には、ブルンディからケニアに移られ、39年間、テヌウエクに看護学校が出来てからはずっと教師として奉仕されたバーバラ・ピンクリー宣教師の送別会が、学教主権、病院共催、のような形で行われました。病院内の集客室で行われましたが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、出席者を限定し、生でZoom配信という形で行われました。たくさんのお教子の中には、遠隔地、外国で看護師・保健師・助産師をしている人達もいるので、Zoomのチャット機能に各地からメッセージが書きこまれていました。バーバラ宣教師から、事前に「泣かないようにお祈りください」ということでしたが、3、4回危なかつた場面はあったけれども守られた、最後までスピーチもできた、と後で感謝のメッセージが回ってきました。

彼女のスピーチの中には、様々な面白いエピソードとともに、20年前に癌が見つかって手術を受けてから守られて奉仕を続けることができた感謝のお証もありました。卒業生でもある手術室主任のヴィンセント兄弟が司会進行に指名されていたので、私自身は留守番、ライブで見れる時間もありませんでしたが、テヌウエク病院のフェイスブックの動画で見られるということで、帰宅してからゆっくり拝聴できて感謝でした。日本からもご覧いただけると思います。

同じくインターネットを介して宣教ビデオも日本と同時期に視聴できました。収録時間ギリギリまで病院から戻れなかったり、途中で病院から電話が入ったり、色々準備を準備しても回線が途切れたり、色々ありましたが、緊張した献身のお証しの収録も終えることができ、また日本の野田先生に字幕付きで編集していただくことができて感謝でした。■

「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」

(箴言三章5、6節)

主にあつて新春のお喜びを申し上げます。いつも背後で尊いお祈りと温かいご支援を感謝します。

11月に入り、寒波が隔週で襲来し、一日の寒暖差が10度を越える日が増えました。この寒暖差は今後、さらに大きくなり、例年、朝夕は10度前後、日中は25度を越えるようになります。この時期は、体調を崩しやすく、一旦不調になると、なかなか回復せず、インフルエンザや急性胃腸炎などが大流行するのもこの時期です。

今のところ、新型コロナウイルスの施策は万全の状況で、この半年間、国内の新規感染者は出ていません。けれども保健衛生局の通達で、12月に入り、公共機関や公

公共交通などではマスク着用が再度義務化され、銀行や郵便局、百貨店やショッピングモールなどの入口での検温と手の消毒も再度強化されました。国内で感染者が出ていないこともあり、もう大丈夫と警戒にほころびがはじめていた国民に対して懸命に注意喚起を促しています。

そのような中、台湾の小中学校は11月下旬から12月といえは、運動会シーズンです。近くの公立小学校でも、入校の際に、検温と記帳、本人確認を実施しつつ、例年よりやや小規模となったものの、運動会が開催され、賑やかな歓声が辺りにこだましていました。台湾では、少子化の波が及び寄る中、依然、学齢期の児童数は多く、台中市内にも生徒数が千人を超えるマンモス校がいくつも存在しています。多くの学校では、運動会当日に出場できるのは、希望種目を登録し、選抜された生徒のみです。全員がいずれかの競技に出場できるように工夫があるとのことですが、選抜された生徒は誇らし気なしたり顔で、競技を見守る家族の熱い声援を背に、白熱した戦いが繰り広げられたようです。

秋の教会の歩みを振り返ってみると、台中教会では、毎週の聖日礼拝、朝夕の祈禱会を一回も中止することなく継続して守ることが許されました。8月末の教会あげの台南の福音礼拝での奉仕の恵みが今なお広がり続けており、祈りと周到な準備のうちに、毎月の

歓迎礼拝で有志の姉妹方が賛美チームとして、新しい讃美歌の紹介や集会の賛美をリードしてくださっています。

11月の世界宣教聖日礼拝では、日本の全国教会が自分たちのために祈ってください、自分たちもその祈り・宣教の一端に加わっているとの不思議な結びつきを感じました。

また12月の歓迎礼拝では、自分も証しをしたいという志を与えられた「兄が祈りつつ備えられ、深い淵から」と題して、難病の戦いの中で神さまに出会った信仰の証し、テーマに沿った讃美を紹介して下さいました。台南でも、毎週、日本語礼拝が休止されることなく、守られ続けており、

11月の福音礼拝においては、日本語能力試験を猛勉強中のC兄が「神さまの答えは想像を超える」というテーマで、初めて日本語で信仰の証しを担ってくださいました。

台湾の教会は、クリスマスに向かって準備の中にあります。少しずつ自粛や規制が緩和され、日常生活や通常の出入りが戻りつつある中、主のみ守りと、いま自分たちが置かれている状況がどれほど恵まれているのかを感謝しつつの歩みです。

台中教会でも、クリスマスの日程の確認、プログラムの打合せをし、具体的な準備と練習が始まっています。「私たちが滅びうせなかつたのは、ただ主のあわれみに

よる」とのみことばを実感するクリスマスです。



■会計報告11月分
宣教献金 八四六、六二七円
月平均 一、六三五、五〇二円

お祈りの課題

ザンビア (根廻)

- ◆ 昨年の多くの恵みに感謝
- ◆ 新年1月の再赴任の準備のため
- ◆ コロナ禍でのザンビアの経済のため

ザンビア (富澤)

- ◆ ザンビアへ帰る準備のため
- ◆ ザンビアの国のため(経済波状破綻が起きているようなので)
- ◆ コロナによって起こっている様々な困難からの御守りと助けがあるように

香港 (鹿島)

- ◆ 今年の教会と個人に与えられたみことばに忠実に歩めるように
- ◆ 近隣の働きが再開され、新しい道が示されるように
- ◆ なかなか収まらないコロナ禍の中で、香港の経済の回復と根深い政治的な課題のため
- ◆ ケニア (篤田就子)
- ◆ 人手不足の中、今月も守られた感謝

- ◆ 新型コロナウイルス関連の様々な長期ストレスの中にある患者さん、ご家族、スタッフのため
- ◆ 麻酔科、整形外科を始めとする働き人(ルカ一〇章2節)が起されるように
- ◆ カンボジア (篤田緑乃)
- ◆ 12月初旬に地区的ではありませんが再度コロナの流行、学校が在宅オンラインとなりました。

速やかに抑えられ、集会の閉鎖、福音の伝達の妨げが封じ込められますように

- ◆ KCCの伝道者の献身のスピリットが純真、純化され続け、救霊の重荷を本気で背負う姿勢に成長するように
- ◆ カンボジアへの入国許可が早くおるように。また篤田の足の痺れの症状の速やかな改善のため
- ◆ フィリピン (豊田)
- ◆ 学生たちの健康と霊性のために
- ◆ 職員たちの次学期の準備が十分にできるように

- ◆ 事故、事件、怪我、過ち、災害、疫病から家族が守られますように。常喜の右目の回復のため
- ◆ 台湾 (平瀬)
- ◆ クリスマスの特集に集われた方々が、継続して来会されますように
- ◆ 一日の寒暖差(15度くらい)の大きな時期、健康が守られますように
- ◆ 新しい年2021年を踏み出した台中教会の上に、神さまの確かなお導きと支えがありますように
- ◆ 台湾の政治と経済、教育、治安が安定を見るように。国際情勢が緊迫化を増しています
- ◆ 日本にいる子どもたちの心とからだ、生活が守られますように。背後のお祈りを感謝します



聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

可能性を見出して

院長 ● 林 正弘

「ところが、彼らの中にキプロス人とクレネ人が何人かいて、アンテオキアに来ると、ギリシア語を話す人たちにも語りかけ、主イエスの福音を宣べ伝えた。」
(使徒の働き 一一・20)

新しい年を迎えました。昨年は、年頭には予想もなかった新型コロナウイルスの感染拡大により特別な年となりましたが、皆さまのお祈りとご支援をいただき、変わるごとのない主の恵みによって守られ、導かれてきました。

この年も主に導かれて進みたく願っております。神学院を覚えて

お祈りくださいますようお願い申し上げます。

制約と困難が大きくても、そこに新しい道を開いてくださるの恵みの神さまで。神の民の歴史はその実例で満ちています。初代の教会においてもそうでした。こ

こに「散らされた人々」が出てきます。彼らは自ら進んで他の場所に向かったのではありません。ステパノの殉教から起こった迫害によってやむを得ずエルサレムを離れた人たちでした。しかし、そのなかでも彼らは自分にできることをしたのです。みことばの福音を伝えながら巡り歩いたと記録され



落ち葉の中のキャンパス、静けさが漂います

ています。そして、アンテオキアまで来たとき、新たな可能性を見出します。そこにはギリシア語を話すユダヤ人や異邦人が多くいました。生粋のユダヤ人はユダヤ人以外にはみことばを語ってきませんでした。キプロスとクレネ出身の人たちはギリシア語を話す人たちにも語りかけ、福音を伝えました。そして大勢の人が信じて主に立ち返りました。これが本格的な異邦人伝道の礎となりました。私たちの前にはどのような可能性があるでしょうか。厳しい状況は続いています。失ったことやできないことを教え上げれば切りがありません。しかし、主を見上げ、主に心を開いていただくとき、今できることに気づくことがあります。その可能性に期待し、前に踏み出すこの年となりますように。

聖宣神学院入学案内

この春、入学審査受験を希望される方は、以下を読み、間違いないように手続きを行ってください。

◆出願資格・コース パンフレットやHPで確認してください。

◆出願書類 以下の書式一式を神学院宛請求してください。

一、所属教会牧師推薦書 1通

二、教会信徒推薦書 1通

三、入学願書 1通

四、健康診断書 1通

五、戸籍謄本 1通

六、自筆履歴書(市販書式) 1通

七、写真(履歴書に貼り付けたものの他にもう一枚) 計2枚

八、最終学歴の学校の卒業証明書(本年見込みの者は、それに代わる書類) 1通

九、最終学歴の学校の成績証明書(本年見込みの者は、それに代わる書類) 1通

十、新生の証し(A4用紙横書き、長さは自由) 1通

十一、召命の証し(A4用紙横書き、長さは自由) 1通

◆出願方法
志願者は出願書類の三十一をそろえて所属教会の牧師に提出してください。所属教会の牧師は一の所属教会牧師推薦書と二の教会信徒推薦書を加えて封筒に封入し、

簡易書留でご送付ください。

◆出願期限 2021年2月15日(月) 必着

◆審査日程 2021年3月1日(月)

◆審査会場 聖宣神学院

◆検定料 いただいております。

◆審査科目 書類審査、筆記試験(聖書、一般)、面接

◆合格発表 一週間以内に受験者宛に郵送で通知します。

◆その他の注意事項

▽所属教会の牧師と相談して出願してください。教会の承認を得て送り出されることは大切です。

▽試験日には、普段使用している聖書を持参してください。

▽主の召命の意味を心に留め、真実な教会生活を心がけてください。

▽入学後の経済について所属教会牧師と話し合ってください。

▽イムヌエル教会出身の方は、『イムヌエルの六十年』などを読み、教団の歴史と信仰について学んでみてください。

▽神学生納入金は、入寮生は月額三万円程度です。聴講生は科目数で受講料が決まります。その他、書籍代、交通費、食費など生活に必要な経費がかかります。入学金はあります。

▽経済的な理由で学びが困難と思われる学生のためには奨学金制度(貸与)があります。

◆神学院の学びの中で

相手を知る

正規コース 石川 順

「喜んでいる者たちとともに喜び……」(ローマ二・15)

*

コロナ禍にあっても、オンラインという形で学びの時を持たせて頂いていること、そして主が恵みを注いでくださっていることを感謝しています。神学院では、宣教師Ⅲ(キリスト教と諸宗教)という授業があり、私はこの授業に出席し学んでいます。授業の課題で、身近にある宗教のことを自分で調べてみましょう、というものがありません。そこで私は、創価学会について少し調べてみることにしました。と言うのは、神学院に入学する前に働いていた職場の同僚が熱心な創価学会員だったのを思い出したからです。当時彼に、牧師になるために神学院に行くのだと伝えていて、入試を受けて合格をもらったことを話したら涙を流して喜んでくれました。「石川さんの努力が報われたんだ」と。私はその姿を見て、そこまで他人のことを喜んでくれるのかとその方の人間性の温かみを感じました。私は創価学会に対してあまり良

い印象はありませんでしたが、この授業の課題に取り組む中で創価学会のルーツや教えなどを知り、私がつけていた偏見がなくなりました。そして餅は餅屋だと思ひ、その元同僚に創価学会の事について色々お聞きしたのですが、それにも快く回答してくれました。違う宗教だからといって安易に相手を批判するのではなく、その宗教を知ること、その人自身を理解することは大切なことだと教えられました。私も、元同僚が私にしてくれたように、そしてイエス様がそうであったように、ともに喜びともに泣く者とさせて頂きたいです。いつも私たち神学生のためにお祈りと尊いご支援を頂いていること、心から感謝いたします。

◆神学院の学びの中で

収穫

短期コース 田中利道

「成長させたのは神です。」

(Iコリント三・6)

小さな者のために熱いお祈りとお支えを、感謝いたします。

最近、よく思うことがあります。人知れず、だれかがきれいにしている。だれかが育てている。誰



冬の朝、神学院本館の玄関です

かが保っている。T先生には休みがありません。月曜日から働いています。しかも、生き生きと働いておられます。先生には「覚悟」があるに違いないと思うことがあります。変化は休息であると、聞いたことがありますが、お体を大切にしたいと思ひます。春になると、最初に食卓に上るのは筍です。T先生が採って来て、毎年、分けてくださる筍です。真ん中から包丁を入れて、皮に切れ目を入れて中の筍に火が入るようにして、40分位ゆでます。そのとき、一握りのお米と、鷹の爪を入れます。茹で上がったら皮をむいて、水につけたまま、冷蔵庫に保管します。ゴロゴロの大きさに切った筍の炊き込みご飯は最高に美味しいのです。5月になるとフキを取ってくだ

さいます。細くて皮がむけないので新しいスポンジの固いほうで、洗いながら薄皮をむきます。一口サイズに切って3回くらい煮てこぼし、柔らかくなったたら、ひたひたの水を入れて醤油とかつおだしで味付けをします。ほんのりと苦い、春の味を、熱々のご飯で食べる幸せ。母のレシピを妻から教えた味です。絹さや、トマト、なす、細ねぎ、大葉、さつまいも、美味しいものをさらに美味しく調理するとても大切なことだと思います。もうすぐ大根もいただけそうです。T先生が種を蒔き、収穫して与えてくれたものばかりです。主は「まどろむこともなく眠ることもない。」(詩篇一一一篇) 収穫の主よ。働き手を送ってください。

後援会コーナー

コロナウイルス感染拡大の中で 卒業生・在校生のために お祈りの手を挙げよう

聖宣神学院後援会

コロナ禍の中で、新しい年を迎えました。世の中がどうであろうとも、神さまの計画は着々と進められていくことを覚えます。

昨年は、BTCに関わる様々な行事が中止となりましたが、10名の神学生の方が継続して学びと訓練の中におられます。

この年も、神学生のために、BTCのためにお祈りを継続させて頂きたく願っております。また、後援会の新しい取り組みとして「BTC後援会会費」へのご協力要請を昨年11月の「BTC後援会たより第8号」でさせて頂きました。後援会費はご案内の通り1口500円/月として教会で、また個人でもご支援いただければ感謝です。これはあくまでもBTCのためにまた、献身者が興されるように祈りと共に自主的に加わり、後援会を通してBTCへのサポートを充実させて頂きたく願っております。後援会費は毎月の本部費送金時に「BTC後援会費」と記載してご送金下されば感謝です。今月も引き続き、以下の課題に心をお寄せ下さりお祈りいただきたくお願いいたします。

- 1 昨年末BTCフォーラムが、オンラインで実施されましたが幸いな時を共有させていただきました。献身に導かれる方が多く興されますように。
- 2 教師、職員、信徒でご奉仕してくださいる方々(食堂、図書館、営繕、ペテルハウス)のために。
- 3 後援会の世話人になつてくださる方が更に与えられるように。
- 4 今年1月から「BTC後援会会費」を募りますが、多くの方々に加わって下さるように。(池田)

いま神学院では……
神学院の理念を大切に
教師●野田 禎



聖宣神学院は「本教団教師となる者の育成に当たる」と教団条例第127条に記されています。私は伝道者になって30年。4年間の教育が無かつたら今の私はなれないと思ひ感謝で心は溢れます。聖宣神学院はBible Training Collegeとも呼ばれます。Bible Trainingは聖書 Trainingは靈的な訓練Collegeは知的な学びです。私が1年生のときに、「メソジズム」を葛田眞實先生に教わりました。初代院長のテキストを中心にし、眞實先生のメソジストとしての生きた証し、教訓は毎回宝石のようで、聞き逃してはならないとメモを取っていました。その「メソジズム」の講義を私は担当しています。同じように初代総理のメソジズムのテキストを用います。私たちの群の創設者葛田二雄牧師のこと、そしてウェスレーの生涯をいろいろな書物を通して学んでいます。救いと聖潔という素晴らしい恵みを神様は与えて下さっています。神様が制定してくださっている「恩寵の手段」はとても大切に

す。人を救って下さるのは主イエス様です。聖霊により救いをそして聖潔に導かれ、神を愛すること、自らを愛すること、そして人を愛することの喜びを知り、福音宣教の情熱は燃えていきます。そして、神様のかたちとして造られた私たちが、本来の姿に変えられ、家族が社会が変えられていくことを思い、学生たちと語り進めています。もう一つの担当は「宣教学3」キリスト教と諸宗教です。人は神様のかたちに造られています。ですから、まことの神様を知らないときも、自分をはるかに越えた、存在に心向け礼拝をしたいという敬虔な想いがあるようです。講義では他の宗教のことを学び、敬虔に信じている方々を尊敬し学びつつ、「この方以外には救いはない」(使徒の働き四・12)ことをどのようにお伝えし、聖霊によって主に人々が救われていくかを話し合い講義を進めています。「パウロと親鸞」(佐古純一郎)、僧侶から牧師になった方々の本も読み、仏教、神道、イスラム、異端と呼ばれるものも学んでいます。日本において福音を伝えるときに、葬儀やお墓は重要な位置を占めます。キリスト教葬儀を通して福音宣教を広げることなどを真剣に考え語り合えることは幸せです。常にお他宗教の方が大切にしていることを尊敬し、ユダヤ人にはユダヤ人のように、同じ視線から福音を伝える事を考えています。何とか一人の人を救いに！と

同窓生の近況

57期生

上田教会●古川恵子



新年明けましておめでとうございます。神学院の卒業が許されて11年。今年の年会で12年目の働きになります。若輩者です。卒業後、高津、神学院3年、和田1年、岐阜3年7か月。上田4年2か月です。この11年9か月を乗り越えられたのは、神学院での恵みがあったからです。大切なこと「2つ」いただきました。「神様の声を聴くこと」、そして「友」です。それがなければ、今の私はないと思います。上田はとても寒い場所ですが、温かい信徒さんに囲まれ、2匹の犬に引っ張られて生活しています。新型コロナウイルスにも引っ張られて、带状疱疹に罹りました。今は元気で「走り続けてきた」感じもします。イエス様に「もつと静かに座って、恵みを感じたら」と言われた2020年でした。ふと、立ち止まると、こんな寒い時期なのに窓辺にハイビスカスが咲いていました。ビックリ！です。立ち止まらないと見ることができない、神様の配慮にたくさん囲まれています。お祈り感謝いたします

神学院スタッフ…恵みの想起

営繕奉仕20年の感謝

営繕課 徳竹信雄

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事を感謝しなさい。」(一テサ五・16、18) この聖句はBTC卒業記念に院長葛田眞實先生から色紙に書いて贈って頂きました。恒例で、卒業前の男子神学生は主都中央教会祈禱会で証しすることになっていましたが、その年は卒業生3人に説教を命じられました。その聖句が院長の手によってはなむけの言葉に変わりました。「メッセージは聴衆に向けて語るより、まず自分に向けて語って」そんな思いで、ことばを握り直しました。20年間、BTC営繕担当し感無量です。「いつも絶えずすべて」は主の憐れみと慰めによるものと思うと、コロナ禍の中でも豊かな望みに溢れております。

学苑だより

謹賀新年

● 授業は十二日(火)から再開します。今年には情勢を見つつ、最後までリモートになりそうです。● 教師会で取り上げられたハラスメントの取り組みは、教師も重く受け止め、さらにより神学教育環境を作ってゆけるように、思いを新しくして参ります。● 感染者数の増加が報じられ、ベテルハウスの宿泊利用はもう少し様子を見ます。お問い合わせは学務課の馬場姉まで。● 今月は卒業判定の神学院運営委員会が行われます。いよいよ第四コーナーです。お祈りください。● 神学院祈り会は行いません。● 後援会コーナー新設！ 神学院祈り会が中断していることから新しい取り組みが始まりました。後援会が神学院欄の一寸を担当、情報や祈りの課題を発信していくとさせていただきます。ぜひお読みください。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。11月の会計報告をさせていただきます。

11月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥435,550
教会団体による「神学院献金」
¥452,950
合計 ¥888,500
その他の献金(一時・特別)
¥63,000

・振替：00230-0-10138



公報

本部通達

恭賀新年

「新しい歌を主に歌え。主は奇しいみわざを行われた。主の右の御手聖なる御腕が主に勝利をもたらしたのだ。」(詩篇九八篇1節)

2021年の年頭、イムマヌエルの各教会、教団全体が主の導きと祝福が豊かに満ちあふれる中、歩み出すことができますようにお祈り申し上げます。

■本部

▽本教団に属するすべての教会は、条例第81条の定めに従い、1月中旬に新年度の「教会総会」を開催します。教会員は、所属教会の総会(昨年度教財勢報告や承認、新年度の活動方針発表などがなされます)にご出席ください。コロナ禍で日程などの延長を(予定の教会は代表の承認を得ていただきたく存じます。国内教会局で作成された「コロナ禍での教会総会の持ち方」についてのガイドライン)も参考にしていただきますようお願い申し上げます。

各教会は年会資料となる「年報」を1月19日(火)までに本部宛の提出をお願いいたします。

▽来年の年会後の転任異動期間は、原則として4月5日(月)～10日(土)とし、予備日を4月17日(土)までとします。

■総務局

2021年度の教団主要行事予定表(暫定版)を、昨年12月に各牧師宛に配布致しました。日程に変更や修正がございましたら、可能な限り今月中に本部総務局(担当・中山朝雄)までお知らせください。

なお、第76次年会資料作成のため、各局・委員会・教区宛に、報告原稿をお願いしていますが、締切は1月18日(月)となっております。年会資料は事前送付を考慮しておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

〈財務委員会〉

昨年の責任役員会において、2020年度の教団予算案が審議され承認されました。昨年度の本部費等(融資返済を含む)本部振替送金は、会計整理の都合上、1月15日までに手配をお願いします。

〈教職按手礼試験について〉

教職按手礼試験の受験希望者は3月末(昨年から締切が早くなりました)までに総務局へ申請書の提出をお願いします。相談は各地域担当ブロックアドバイザーまで。

〈教団四献金について〉

今年も宣教活動推進のために、各教会で以下の諸献金への参加をアピールして頂ければ幸いです。

- ◆国内宣教献金
- ◆世界宣教献金
- ◆神学院サポート献金
- ◆厚生資金献金

〔第22次総会〕
日程 来年2月11日(木)
午後1時～8時

会場 フクラシア品川クリスタル(港南)

コロナウイルス感染症の影響で来場が困難な代議員の方のためにオンラインでの参加対応、代表選の期日前投票も準備しています。

〈第76次年会〉

オンラインで行う事務年会となります。年会招集状は教団総会後に限定された年会員へ送付されます。例年通り年会資料を事前送付いたします。文書による質疑受付期間と応答期間を3月1日以降に設けます。3月25日(木)午前11時代表の挨拶とメッセージ(オンラインで視聴可能) 午後11時(Zoom)

〈厚生委員会〉

昨年12月に厚生委員会から「認知症の方と良い関係を築くための研修」DVDが、テキストとともに各教会へ配布されました。ぜひご活用ください。

■国内教会局

▽本年の関東4教区新年聖会は中止となります。

■世界宣教局

▽昨年も宣教コイン献金にご協力いただき感謝いたします。今年一年もご協力をお願いいたします。なお本部送金の際には通常の送金ものと区別して「宣教コイン献金」と明記してご送金ください。

▽富澤香宣教師、根廻恵子宣教師(ザンビア)は渡航中止勧告のためザンビア赴任が延期されていますが1月15日に出発されます。ザンビアへの郵便物、物資の送付

については安全のためしばらく中止くださるようお願いいたします。

〈IWF関係〉

▽2021年の宣教師たちの予定は以下の通りです。奉仕依頼については直接、宣教師にお問い合わせください。

*アンドレア宣教師
6月～8月 帰国

*ホーリー宣教師
10月～2022年3月まで帰国

*ロビン宣教師ご夫妻
石川県在住

*ザック宣教師ご夫妻
2021年は帰国。

*ブランドン宣教師は下関教会を中心に活動。

▽IWF基金は申請すればIWFの宣教師を教会に招くための支援、また教会堂の修理や改築費用の融資のために用いることができます。

■教育局

▽第3回若手牧師研修リモートミーティング
日時 3月2日(火)
テーマ 「牧師と交友関係」 いろいろなこんな友達

〈教育部・信徒教育課〉

▽各教会で自由にご活用いただける信徒向け聖書講座(無料)を提供中。

内容 「使徒の働き」の学び
講師 岩上敬人師(JEA総主事)
諸事情により、現在は富士見台教会のホームページから視聴していただけるようになっていきます。

消息報告



▽橋本清喜先生(引退牧師)は11月22日に地上生涯を終えて主のもとに召されました。89歳でした。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

▽藤本幸子先生(引退牧師)は12月1日に地上生涯を終えて主のもとに召されました。91歳でした。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

教報PDFパスワード 9681

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣
発行所 東京都千代田区神田駿河台一〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇
新宣教団 定価 一部110円(税込)
郵便振替 001107133609